

外部評価個票

資料2-③

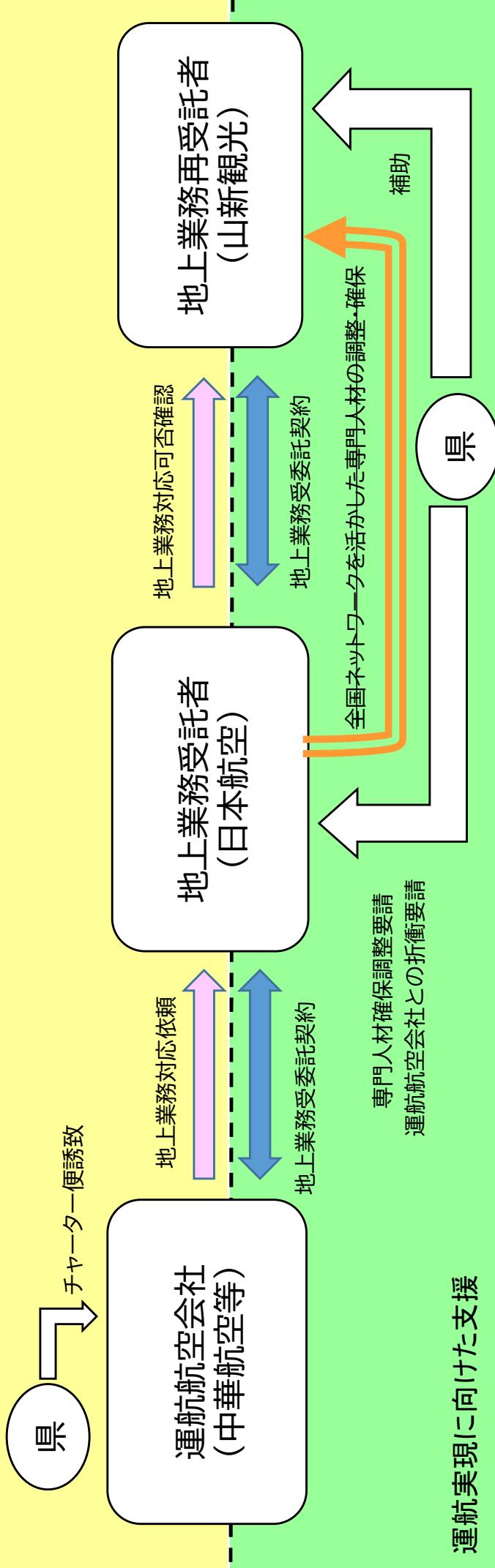
事業名	国際チャーター便受入環境整備事業	開始/終了(予定)年度	H22 / -	成果指標及び 成果実績	成果指標	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和●年度 (最終目標)	
グループ名	国際チャーター便地上業務	実績	便	0	0	92	0						
部局・担当課名	観光文化スポーツ部 イン・アウトバウンド推進課	当初見込み					200	84					
創設背景 (課題)	国際定期便の就航がない本県空港において、国際チャーター便の就航はインバウンドの増加はもとより、空港の利用拡大の推進にあたっても重要な一方でコロナ禍を経て国内の航空業界では人材流出が進み、特に地上業務（グランドハンドリング）への従事者が不足している	実績	人	0	0	12,720	0						
事業の目的	地方空港の国際線受入において課題となっている地上作業員の確保を支援し、国際チャーター便の受入環境を整備する	当初見込み					12,000	5,670					
事業概要	県内空港における国際チャーター便の受入体制の整備及び国内定期便との受入重複へ対応するために必要となる地上業務に係る経費を支援 ① 山形空港における国際チャーター便受入体制の整備 国内定期便の離着陸を行なながら、国際チャーター便を同時に受け入れるために、専門的な資格や技能を有する地上業務員が必要となるため、当該者を雇用するための経費の一部を支援 ② 国内定期便との受入重複対応経費 実際にチャーター便が運航される際には他空港等から応援要員の派遣を受けるとともに、追加の臨時雇用等により対応するため、これらに必要となる経費の一部を支援	①チャーター便受入数	実績										
補助概要	補助率 (最終受益者に対する補助率)	県の裁量の有無	補助の相手方	②上記による外国人観光客数	人	0	0	12,720	0				
	定額ほか	有	山新観光株式会社	③	実績								
		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	④	実績					
							当初見込み	当初見込み					
							成果指標設定の考え方						
							国際チャーター便の運航便数及び同便により訪れる外国人観光客数を指標としているもの						
							執行率50%未満の場合の要因分析						
							令和6年度については、令和5年度やコロナ前の令和元年度（219便）の運航実績を参考に100往復200便分の予算を計上していたところであるが、コロナ禍を経た航空機材やパイロット等の不足のため、本県空港へのチャーター便の運航が行われなかった。これに伴い、チャーター便の運航に応じて支払う、事業内容②に相当する67,410千円分が未執行となったもの。						

国際チャーター便受入態勢整備スキーム

運航計画に向けた誘致・態勢整備

【安定した受入体制の整備・維持】

- ・国際チャーター便受入れ可能な時間帯は、国内・定期便と旅客対応等が重複することから、地上員等2班体制が必要となり、応援要員が不可欠。
- ・県としてチャーター便を継続的に誘致するため、山形空港の地上業務を担い、専門性・特殊性のある地上業務員を常時確保し受入体制を維持している山新観光に対して支援



【運航計画の実現に必要な態勢の整備】

- ・運航便数や運航ダイヤにより、地上業務再受託者において必要となる経費を県が支援
- ・必要となる人員等は、運航計画に応じて県・地上業務受託者・地上業務再受託者で協議、精査
- ※ 受入態勢は、運航航空会社と地上業務受託者との地上業務受託契約において整備し、その経費を負担すべきものではあるが、全額負担を求める
- と、航空賃の高騰を理由に国際チャーター便の運航中止が想定
- また、十分な受入態勢が整備できない場合、国内定期便の定時運航に悪影響を及ぼす可能性
- ※ 地上業務受託契約締結(運航航空会社ー地上業務受託者間)に際し、チャーター便運航に影響を及ぼさない範囲で負担を求めるよう県から要請

国際チャーター便受入環境整備事業の主な実績について

山形空港における国際チャーター便受入態勢の整備	令和4年度 19,570千円 令和5年度 15,611千円 令和6年度 21,206千円
国内定期便との受入重複対応経費	令和4年度 0便 0千円 令和5年度 92便 27,551千円 令和6年度 0便 0千円